

NPO法人



2013年 9月10日  
第19号

# Jomon Shiba



特定非営利活動法人  
縄文柴犬研究センター



# Jomon Shiba

## 第19号

### もくじ

**犬との信頼関係** ☆JSRC理事長 新美治一(名古屋経済大学名誉教授) ..... 2

**提案** 繁殖センターの必要性について(メーリングリストから) ☆五味靖嘉 ☆黒梅 明 .....3

**「アテルイの里」交流会報告** ☆岩手県 佐々木俊幸 .....4  
 交流会に参加して ☆石川県 黒梅 明 ..... 5

**シバの散歩道(19)** ☆JSRC理事 根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家) ..... 6

**お便りコーナー** ☆秋田県・藤澤さん ☆北海道・橘さん ..... 10  
 ☆山形県・吉野さん ☆京都府・金さん ☆大阪府・有藤さん ..... 12  
 (参考:犬の陰茎骨について ☆五味靖嘉) ..... 12  
 ☆富山県・竹内さん ..... 13  
 ☆「ノウゼンカズラ」の咲く時期に 愛知県・西谷智子 ..... 14  
 ☆キューとの散歩 石川県・黒梅 明 ..... 15  
 ☆琴2歳 和歌山県・和田 修 ..... 16  
 5ページからの続き 交流会のしおりから  
 ☆大塚忠之さん ☆長井一詩さん ☆西谷 繁さん ☆榊田浩行さん ..... 18  
 ☆竹村節子さん ☆越田洋子さん ☆渡辺隆一さん ..... 19

**女子高校生との交流・インターンシップ報告** ☆柴犬研究所 五味 ..... 20

**里親に出した仔犬達の近況報告から — 提案** ☆理事・一ノ澤義雄 ..... 23

**事務所報告** ☆新入会 ☆会費 ☆寄付金 ☆仔犬登録 ☆寄贈 ..... 24



橋 宏画 (油彩100号)  
 白雲山荘の裏から遠方のトムラウシ  
 中央は高根ヶ原 9月中旬  
 (65回アンデパンダン展出品作品)

・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

## 特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所

郵便振替口座 02280-2-106951

〒 014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5

TEL 0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/>

[encounter\\_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp](mailto:encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp)

## 犬との信頼関係

NPO 縄文柴犬研究センター 理事長 新美治一

名古屋経済大名誉教授(元 名古屋経済大学大学院法学研究科教授)

真夏の「夢」である。

リンが死んだのが昨年(2012年)の12月。それから約8か月。モノ心がついてから初めての犬のいない生活である。いまから子犬と生活をはじめると「わたしが先か、犬が先か」などという解けない方程式が去来し悩みに悩んでいたが、もう限界である。すばらしい伴侶(女房)といまなおともに生活し、子や孫たちとのゆききも煩瑣なほどにあって、「息遣い」を感じる生活は満ち足りているはずである。教え子たちとの交流もあり、東京やモスクワでの大学時代の友人との交流にも不満ひとつないほどに盛んである。

ところが、である。「いぬ」がいないことの寂しさや空虚さをひとしお最近感ずるようになった。原因はよくわからない。はっきりしているのは、過去に小生といぬとの間で築かれていた信頼関係は、人間相互のものとは異質なものである、ということである。主従の関係にしようとするればいつでもそうなったはずであり、現実にもそうであったにもかかわらず、相互に交わされた信頼関係は、この世のものか、と思われたほどである。

小生は、個人的なお付き合いで人に裏切られた、という経験は記憶にほとんどない。また、人を裏切ったとかだました、とかということもない、と確信している。しかし、こうした人間相互の信頼関係を維持していくには、相当な緊張感と責任を要求されると同時に、ときには「自己犠牲」や「自分を納得させること」が求められる。犬との間に生まれる信頼関係は、ゆったりとくつろいだ、よく近くの河原でリンを枕にして、春の陽をあびながら、うたた寝をした信頼関係のようである。

人間関係は、シビアである。「真夏の悪夢」に近い関係もときにはある。返り血を覚悟で、相手をとことん批判しなければならぬこともある。自らの生活をまもり、子や孫のために、「戦わなければならないこと」もある。以下、小生が主宰している連続憲法学習会の「生々しい」実例。

参議院選挙の終了とともに、財界の御用新聞・「日本経済」を含むマスコミが、私たちが選挙期間中に明らかにしていたアベノミクスの問題点を次々と指摘し始めた。

○ 個人のくらしが、収入減やその不安定化+食料品や日常必需品(ガソリンなど)の値上がり+医療費

の負担増によって厳しくなりつつあること、○ 中小零細企業の生業を不可能にする資材や仕入れ商品の高騰[サンマ漁解禁なのに燃料に見合う収穫は不可能と判断し出漁を取りやめる漁師。農業の資材・肥料の高騰で来年の作付を見合わせる農家]、○ 個人の尊重を基調とする憲法を戦争のできる国家中心の憲法にしようとする危険性、○ 「一人ひとりの命と才能を發揮させること」を最高の価値とする戦後教育理念をかえ、「国のために命をささげることのできる子どもの育成」へと転換しつつある教育政策、○ アメリカの世界戦略には無条件にすり寄り、近隣諸国とのまともな外交関係を打ち出すことのできない国のあり方の危険性、○ 電力は充足されているのに、事故の処理の見通しも立たない原発の再稼働から輸出まで推進する金亡者の本性の危険性(新潟県知事が東電社長に突き付けた言葉: あなたが大切なのは人の命より金ですね)、○ 国のかたちをかえ、人々の生活の基盤を破壊することが危惧されているTPP(環太平洋パートナーシップ協定)への参加に固執する危険性、○ 庶民の生活基盤をますます厳しいものにする消費税率の引き上げ、○ 雇用の自由化の推進によって働く者、とりわけ若者の人生設計をますます見通しの立たないものにする施策、○ 年金額の漸次切り下げと医療費の自己負担増、生活保護制度の改悪、○ 借金が1000兆円を越えようとしているのに、日本に納税していた大企業の「自分たちの利潤増だけを考えての海外移転(多国籍企業化)の促進[大規模な公共事業への歳出が国家財政破綻を加速させる。アメリカの地方自治体の崩壊現



林王丸-奥州新美荘・1998.12.28生

(桜の紅中×風神姫)

象は、明日はわが身のことになりかねない]、等々。

これらの事柄については、選挙期間中に安倍・自民党政府の「政策」がもたらす結果として、日本共産党や国民・庶民の立場をとる人々が指摘してきたものである。

本当に大変な時代である。選挙が終了してからしか出せない・出さない「なさないマスコミ」がこの大変さをいっそう重たいものになっている。

五味さんをお願いして、「いぬ」をもういちど飼う

ことにした。リンが居なくなってまもなく1年。大きな言い方をすれば、ようやく立ち直ることができた、との気持ちもある。しかし、それ以上に、犬との交流のなかで、人間が本来、持ち合わせているはずの「ゆったりとくつろいだ」信頼関係を取り戻したい、と思いはじめたからである。新しく小生と生活することになる「いぬ」が、人が生きていくうえで、欠くことのできないやさしい絆で結ばれ、二つの命のあいだで、終生満ち足りた信頼関係が維持されていくことを願ってやまない。(2013. 07. 27)

—— 提案 (メーリングリストから) ——

## 繁殖センターの必要性について

五味 靖 嘉

黒梅 明

以下の文章は、5月にMLで述べられたものを、一部修正し報告します。

2013. 05. 03 —— 五味

このメールは、理事長のご提案がきっかけで私流に書きます。

JSRCは、保存目的の法人ですから、飼育出来なくなったような場合は、事情の如何にかかわらず犬を引き取る(受ける)、というのが誓約書に込めた精神の基本です。だが、この問題は一長一短では済みません。私が秋田に越して来てから現在までの20数年間は、個人的に、研究も含めて引き受けておりました。ここには沢山の誤解や物語・悪戦苦闘があり、簡単に書けることではありません。しかし、その私も72歳の高齢者であり、我が身と犬の問題を検討しなければならない、

という状況が迫ってきました。

出来ることなら、各地に「繁殖センター(仮称)」を設立し、積極的に繁殖と、前記の問題に取り組むシステムが、必要と考えているのです。このシステムは、都会的な住居環境や諸事情を考慮しなければ解決出来ないのはいまでもありませんが、何よりも犬が好きな人材育成と併せ、資本が必要です。

私はいま、この議論をもっと深めたいと、痛切に考えています。とりあえず、一カ所でも良いから、公開できるような、こうした考え方に沿える繁殖センターを立ち上げたいと考えています。みなさんは、どんなお考えでしょうか？

2013. 05. 05 —— 黒梅

読ませていただき、考えさせられました。

私は13年ほど前に秋田犬を10歳半で亡くして以後、犬が好きなのに新たに飼うのをためらっていました。それは、犬との死別の悲しみが大きかったこと、私の仕事が忙しく犬と付き合っている余裕がとれないこと、私の健康や寿命が新しく飼う犬の一生に最後まで連れ合うことができるかどうか心配だったからです。それでも縄文柴犬を飼いだしたのは、いずれ退職した後にはリラックスできる時間を楽しむためには好きな犬を飼いたいという気持ちが強かったからです。

でも、最近、キューの出産に立ちあってみたいと思うようになってから、再び自分の残り生涯とキューの一生を考えるようになり、私がキューを最後まで見届けることができるのだろうかかと不安な気持ちにとらわれます。

人は自分の子供を産み育てるとき、子供より先に自分が死ぬことを考えることはないと思います。しかし予測のつかないのが人生ですから、子より先に死ぬことはありうることです。人間社会では、そういう予期せぬ事態に陥った時には社会的な救済策で子供たちの養育を支えることになります。我が家では私は65歳になり、老夫婦二人暮らしです。一人娘は自立して結婚する気配はなく、若いキューが10年以上は生きることを考えると、私が先に逝くことも十分に考えられます。その場合、キューに誰が連れ合ってくれるのか。それを考えると、キューの出産にチャレンジしたいという気持ちも揺らぎます。孫でもいれば、今から教育していくのですが、それはなさそうですし、友人たちといっても皆が犬好きではないし、犬を飼える条件にある居住環境にある方は少ないのです。テレビでかつて見たことなんです、盲導犬には役目を終えた後に保護

される仕組みがあるようです。でも一般の犬にはありません。ペットショップでは犬を売るばかりです。主人を亡くした犬たちが保健所送りになるのは心情的にも耐えられません。

そう考えると、五味さんの言われるように犬の老後の施設、あるいは主人亡き後の犬の保護施設が社会的に整備されることが必要な気がします。しかし、ペットのための公的な施設の設置や管理運営は、ペットと共生する発想が貧困なわが国では啓蒙されるまでに時間と歴史が必要で、今はまだ相当困難だと思われます。

(欧米等ではどうなっているのか、私は知らないのですが) そう考えると繁殖と結びついた犬の生涯にわたって保護、援助できる共同センターがあればいいなど私も思います。そのために必要な訴えや賛同者集め、資金確保等にNPO法人縄文柴犬研究センターの今後の活動が始められてもいいのではないのでしょうか。

この考えに関する、質問・疑問・その他の投稿を歓迎いたします。(五味)

## 田園風景に囲まれた中で行われた

# 「アテルイの里」交流会報告

岩手県 佐々木俊幸

今年度JSRCの交流会が、梅雨入り直前の岩手は奥州市、「アテルイの里」で行われました。

「アテルイ」ですが、平安時代初期に蝦夷に侵攻した朝廷軍を撃退した蝦夷の軍事指導者として知られる人物で、この地(岩手県奥州市)で789年(延暦8年)に朝廷軍の坂上田村麻呂に敗れて降伏し、処刑されたとされています。

そんな「アテルイの里」は、今や田園が広がる岩手県内でも屈指の米どころ。交流会場は田んぼに囲まれた奥州市胆沢区の古民家を改築したセミナーハウスで行われました。



参加者は、今回幹事を務める佐々木の他、同じ県内会員の菅野さん(菅野さんは最近生まれたばかりの子犬を3匹ほど連れてきてくれました)、隣県宮城県から繁殖センターを目指す菅原さんと理事の土井さん、秋田からは五味さん夫妻、はるばる北海道から参加の橘さん夫妻、関東圏代表は群馬県の栗原さん、北陸地方からは相澤さん(新潟県)・黒梅さん(石川県)、そして九州大分県から駆けつけていただいた石井さんと全国津々浦々の会員の皆さん12名ほど。大勢の参加者というほどではありませんが、全国各地からご参集くださり、日頃ネット上あるいは会報上でしか交流でき

なかった皆さんと交流を深める機会となりました。

午前中は、古民家の茶の間にテーブルを置いて、コーヒーをたしなみつつ自己紹介を兼ねながら近況報告、今後の会のあり方などを懇談しました。

昼食はセミナーハウスとなりの農家レストラン「ま



だきすた」でもてなす「ぬか釜ごはん定食」で農家情緒を楽しんでいただきました。

午後は、青森県弘前からお招きした、ルポライター・登山家でもある根深誠さんの記念講演会となりました。

根深さんからは、犬・ペットとの生活と都市環境のあり方、環境保護に関わる講演をしていただき、犬と私たちの生活から始まり生活環境や自然環境保護に至るまで広い視野にわたった世界における心得など、示



スクリーンを見ながらの講演会  
根深さん著作のサイン入り書籍販売も行われた

唆に富むご講演をいただきました。

そして夜は焼走り温泉、「ひめかゆ」にての交流会。今回は参加者の皆さんそれぞれが、お国自慢の食材を持ち込んでの宴会ということで、各地域銘柄のお酒や逸品を囲んでの贅沢な一時を過ごしました。

今回の反省点としては、もう少し縄文柴犬の飼い方や知識など、ちょっとまじめな学習会といった雰囲気かなかったところでしょうか。

今後の交流会の一つのアプローチとして考えたいのは、交流会参加者それぞれからの簡単なレポート報告会のような取り組みはいかがでしょうか。「我が家のワンの紹介」の冊子をもう少し発展させたものです。

何も学術的なこと、哲学的なものではなくて良いと思

います。日頃のワンたちと接していて、皆さんが不思議に思うことなどを持ち寄り、縄文犬に対する理解を深めていくといったような、双方向的な学習会の展開といったことを考えていきたいものです。

(2013. 07. 22)



## 交流会に参加して

石川県 黒梅 明

高速道路を乗り継ぎ、途中休憩を含め13時間をかけて会場に到着しました。さすがにキューも私も疲れてしまいました。迎えてくれたのは、里山の緑と岩手の古民家とやさしい笑顔の皆さんと元気な犬たちでした。初めて出会った方々ばかりですが、イヌ好きで个性的で優しい皆さんとすぐに打ち解け、親しくお話しができました。

会場は手作りの幕がかけられ、素朴で飾らないムードで、初めて参加した私には気を遣わなくて安心できる場でした。昼食前に、五味さんの縄文柴犬の頭骨標本を使っての特徴説明があり、私も実物の骨を触って十分納得できました。

昼食はかまどで炊いたご飯と岩手の山菜をとり入れた田舎料理で、美味しかったです。

午後は根深さんの講演で、独特の発想と感性で、役所による公園等の犬猫排除の規制にみられる上からの封建的管理を俎上にし、市民の生活感覚とはかけ離れた不自由で民主主義を知らない行政の問題を教えてくださいました。

夕食は参加者各自が持ち寄った地域自慢の食品を出し合い、手作りの煮物や蜂蜜も登場し、地酒も出されてワイワイガヤガヤの交流会となりました。さすがみなさん自慢するだけあって、おいしかったです。皆さんのお話は、个性的なイヌ観があり、その中にこれまでの人生経験が反映されていて、聞いて面白い話ばかりでした。会ったばかりなのに親しく話しできるのは、この会の伝統的なよさなのでしょう。皆さん、いい表情をしています。

宿舎のひめかゆ温泉は硫黄の臭いがして肌がつつ

るし、温まって、いいお湯でした。

ところで、交流会で見た犬たちはキューと違って足が長く、体はほっそりしまっていて、キューの短足が気になり、私の飼育の仕方が問題なのかなと思いました。でも、ほとんどほえない甘えん坊のキューも个性的でいいのではと思ったりする犬バカの私でした。子犬も見せていただき、愛くるしくかわいいものでした。私は長く病院や老人施設で身障者の生活援助をしてきたので、参加された方の中に車椅子の婦人がおられ、段差のある建物内の移動をお手伝いできたことは幸いでした。

私は到着した早朝に、15年も飼っていた猫が亡くなったと妻から泣き声の電話を受けたものですから、急いで帰らなければならないことになり、もっと皆さんと話をし、キューの出産の体験をしてみたいがどんなものかを尋ねたいと思っていたのですが、残念でした。帰りもまた、高速道路を走り続け、帰宅しました。キューもぐったりです。でも、帰ってすぐにいつもの散歩コースに行くと、元気いっぱい駆け回っていました。

交流会のお世話をいただいた皆さん、本当にありがとうございました。(2013. 06. 19)

交流会の関連、しおりは18ページに続く



## シバの散歩道 (19)

根深 誠 (文筆家・釣り師・元登山家)

シバが食い散らかした残飯をあさりに、スズメやカラスやキジバト、キジ、ヒヨドリ、捨てネコたちがわが家の小さな庭にやって来る。シバはネコやカラスに対しては猛然と突進し、唸って追い払う。ところが、たまにだが、普段は無視するスズメやキジバトに対しても、どういう風の吹き回しか、小屋から出てきたり、地面で寝ているのをむっくり起き上がったたりして蹴散らすことがある。

「こら、こら、そんなに意地悪するもんじゃない」と言って諭すのだが、通じるわけもないだろう。そこでわが家では、スズメやキジバトがちょっぴり気の毒なので、少し離れた場所に、それ専用のご飯粒をばら撒いて置いている。↗



一本脚のスズメ。  
右脚は小さく縮まっていて伸びない

一本脚のスズメが餌場に着地したときはすでに食べ尽くされて一粒のご飯も残っていない。それで一本脚用に別口でご飯を与えていたところふた冬が過ぎて、この春から見かけなくなった。この世を去ったのかもしれない。

シバはネコに対しては、姿や臭いで素早く反応するのだが、カラスには知らんふりをしたりすることもある。カラスはそれが面白くないのか、鎖でつながれたシバの届かない範囲に接近し、からかうようにギャーギャーガーガーわめき散らすことがある。ちかごろではそれすら無視するようになったので、カラスも諦めたようだ。

その一方で、市道をはさんで筋向い側にある、電信柱の下のゴミ置き場にゴミをあさりに来たときはさかんに吠え立て、私に知らせる。最初は追い払おうとし

スズメはどこかで見張っているらしくいち早く集団でうるさく啼き騒ぎながら群がって来る。前稿でも触れたけれど、親スズメが幼鳥に口移しで餌を与えたりしている様子などが観察できるので毎日の楽しみ事になっている。

スズメを観察していて、二年ほど前から一本脚のスズメが一羽混じっていることに気がついた。そのスズメは集団から少し遅れて来ることが多く、いっしょの集団に混じっているときでも一羽だけ離れている。一本脚なので飛び立ったり舞い降りたりする発着時の動きがぎこちないので、どうしても集団から遅れをとってしまうようなのである。



まだ産毛の生えた、カラスの巣立ち雛。  
洗濯物を吊るしたハンガーに止まって近づいても逃げない

てカラスに向かって吠えるのだが、カラスはシバが鎖につながれていることを知っているのだから平然としてゴミの袋を突っついてくる。するとシバは向きを変えて、家にいる私に吠えて知らせるのだ。

それで私が出て行って追い払うことになる。つまり、シバと二人三脚で追い払うので、他の地区で見られるような、カラスにゴミを食い散らかされることもない。

この六月から毎日朝夕、三羽のカラスがやって来てうるさく騒ぎ立てるようになった。わが家ではそれを「三羽カラス」と呼んでいる。朝方5時前後、夕方5時前後に飛来する。いつまで来るつもりなのか、気になっていた。

三羽カラスの親カラスは以前、わが家の庭のマツに巣づくりして、ときどき泊まったりしていたのだが、この冬の大雪でマツが倒れたので、わが家では切り刻

んでゴミとして処分した。察するところ困ったカラスは、4羽ほど離れた隣家の庭のマツに巣づくりして子育てをはじめた。ヒナは3羽。

五月に入って、その3羽が連日、ギャーギャー賑やかに啼き喚きながら巣の上で羽ばたきし、飛行訓練をはじめたのだ。31日の朝、静まり返っていたので、どうしたものかと樹上を見上げると巣はもぬけの殻になっていた。どこかへ飛び去ったものと思っていたところ、じつはそうではなく、まだ産毛の生えた巣立ち雛が、わが家の庭でうろついている。地面に降りて、シバの食べ残した餌をあさっていたようだが、まったく警戒心がなく近づいてもキョトンとしている。シバが見張っていてネコも近づかないので安心しているのかもしれない。

そのうち姿が見えなくなったので、わが家の庭以外でネコに襲われたのかもしれないと気がかりになっていたのだが、無事に育っているようで、朝夕、定期的に二回飛来し、騒ぎ立ててからどこかへ去っていく。

啼き騒ぐ三羽のカラスには閉口する半面、来なくなるとそれはそれで味気ない一抹の物足りなさを感じるに違いない。しかし、いずれ来なくなるのだろう。

※ ※ ※

犬の習性なのかもしれないと思うのだが、走行中の特定のクルマやバイクを、すれ違いざまに追い駆けようとする。ともすれば引き込まれる恐れがある。轢かれかねない。散歩中、バリバリッ、ドドドッという耳障りな轟音を放出するクルマやバイクにときおり出くわすのだが、そのたびに私としては、なんだこのナマイキな走行態度は！うるさい、自己顕示欲まる出し

の目立ちたがり屋のクソ野郎、と苛立ち、罵倒したい衝動に駆られる。

飼い犬の躰にしても、そこから飼い主の性格や人柄が察せられるのと同じように、クルマやバイクにしても、持ち主の心のあり方をそこから汲み取ることができのではないだろうか。「思い内にあれば色外に現る」の類で行動と心理は無関係ではありえないと思う。

ある朝、遠くから不快感を刺激するような爆音を響かせ、その大型バイクとすれ違ったときシバが突進しようとしたので私は、こらっ、と言って、リードを牽いてシバの行動を制しようとした。シバは小型犬のわりにバカ力を出し、以前、二度振り切られて一度は散歩中に会った大型犬に襲いかかり、一度は私を置き去りにして家に戻ってきたことがある。そのたびに市販の首輪が千切れたり、リードが手元から離れたりしたのだ。

以来、改良し、首輪は登山用のロープでこしらえ、リードも両手を離すことができるように、肩がらみにした登山用ロープから登山用のカラビナをつけてリードを出すようにした。

ところが今回はリードの先端に取り付けられた金具が壊れたのだ。あっという間に、シバは猛スピードでバイクを追い駆け、バイクとともに角を曲がって姿を消した。もしかしたらバイクがシバを確認し、停まってくれたらいいのだが、と一瞬思ったが、それはなかった。

私は全力疾走した。しかし、心臓の鼓動が乱れ、残念なことにわずかに10分ほどしか続かなかった。急遽、家に戻り、運転免許のない私は、就寝中の長男をたたき起こしてクルマで探しに出た。おりしも出勤の時間帯であり、街路にはクルマが溢れていた。轢かれでもしたらいへんだ、気が気でない。郊外にあるわが家



タイヤで居眠り中、突然あくびをし、また眠る



夏になると冬毛が抜けて背中にだけ残り、モヒカン刈りのようなになる



から4キロあまり先の市街地にかけて探し回った。しかし、見当たらない。つぎに打つ手は何か。もしクルマに轢かれた場合、保健所に届ける人がいるかもしれない。家に戻ってから保健所に連絡した。親切な係員の対応で、警察にも連絡したほうが良いと担当部署を教えてくださいましたので警察にも電話した。

それにしても困った、困った、こんな形で今生の別れになるとしたらやり切れない。うーん、と唸っていると、出勤した妻から電話があり、心配しているという。しかし、どうなるものでもない。妻は部品組立工場パートとして働いていた。地元のFM放送や新聞社でも捜索活動に協力してくれる、と会社の仕事仲間が話していたので連絡をとって見たらどうかと言うのだ。ただちに、「アップルウェーブ」というFM放送と「陸奥新報」という新聞社に電話で事情を話し、協力してもらえることになった。といて、安心できるわけでもない。

私は自転車で探しに出た。行方不明になってから二時間が経っていた。

シバが大型バイクを追い駆けて曲がった角から一本道がまっすぐに1キロほど続いてT字路になっている。先ほども長男のクルマで通った道路である。T字路が赤信号になっていた。自転車を停めて、さて、右へ曲がったのか、左へ曲がったのか、と思案した。シバも散歩で通ったことのある場所だった。先ほどはクルマで右折したのだ。

自転車に跨ったまま首を伸ばし、左右を確認していると、サワラの生垣をめぐらせた左角の農家の庭から尻尾を振り振り、シバが出てきた。おい、こらっ、何してるんだ。そう言って、自転車から降りてシバを捕ま

えようとしたとき、信号が青に変わってトラックが進入してきた。

運転手が窓から顔を出し、私を睨んだ。すみません、ちょっと待ってください。私は左手を掲げてトラックを停止させ、シバを捕まえようとした。シバは遊んでいるものと思っているらしく、ヒョイッと飛びのいて、先ほど出てきた農家の庭に逃げ込んだ。

自転車を道端に停めて走っていくと、婆さんが一人しゃがんでいて、その傍らでシバがお座りしている。すみません、その犬を捕まえてください。婆さんは、こっち、こっち、と言いながらシバを捕まえた。

「ありがとうございました」

「あなたの犬でしたか。人なつこくてめんこい犬ですね。うちで以前、犬を飼っていたんですが亡くなったもんで、この犬を育てようかと思っていました」

近所の婆さんたちが数人集まってきて、あなたの犬でしたか、人なつこいですね、可愛い犬だこと、と口々に言った。

私は持っていたリードで首輪をつくってシバを結わえて家に連れ帰った。

今回、もしかしたらシバは自動車にでも轢かれなければ、夕方にでも帰るつもりでいたのかもしれない。しかし、シバを捕まえてくれた農家で飼われるようになったらどういうことになっていたのだろうかと不安に思った。

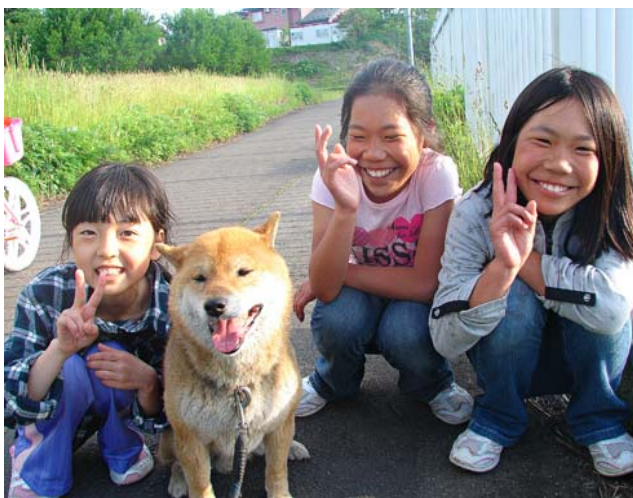
その農家には、つぎの日、箱菓子を持ってお礼の挨拶に伺った。

※ ※ ※

先日、NHKテレビで「犬のペットトラブル」について放送していた。偶然見たのだが、飼い主として大いに参考になった。いまや、この国の飼い犬はおよそ1100万頭で、これは10歳以下の子供とほぼ同数だそうである。

その飼い犬がどんな迷惑をかけているのか。一番がフン害、二番がムダ吠えによる騒音、三番がかみつき、とのことだった。

幸いなことに、わが家のシバはどれにも該当しない。散歩中に草むらにフンはするけど、一度も放置したことはない。ムダ吠えによる騒音もない。夜中に徘徊するネコに以前は吠え立てていたので近所迷惑になると思ひ、夜は家に入れている。かみつきも一度だけ散歩中に、向こうから来た散歩中の犬に襲いかかったことがある。自分より大きな犬に攻撃態勢をとる性向があ



散歩中、顔見知りの子供たちが駆け寄ってくる。

リードの先端にある金具が壊れた

るようだ。人には危害を加えたことはなく愛想がいい。子供らがちょくちょく遊びに来たり、散歩中も駆け寄って来たりする。

散歩していてわかるのだが、放置されたフンが目につくことが多い。マナーのよくない飼い主もいるのである。だからといって、弘前市役所が設置しているような飼い主の人権に対する配慮を欠いた、道路や広場の立ち入りや通行を禁止する「犬猫看板」は論外であろう。弘前市役所という公共の名を語る、市民を愚弄するこうした体質こそ問題なのだが、最近ではますますエスカレートさせて看板だけでは飽き足らないのか、それとも最後の悪あがきなのか、弘前駅の地下通路でのことだが、通行禁止の音声放送を垂れ流している。これに対して、市民の側は、おそらく関わり合いになることを恐れているのだらうと思うのだが、一様に黙認している。

その結果、看板を無視した飼い主を市民が怒鳴り散らし、飼い犬や鳥獣の変死事件が発生するというトラブルの原因にもなっているのだ。市役所ではこうした事件を放置している。しかも一方で、たとえば「桜まつり」の期間中、他所から来る観光客にはペットの入園を黙認している。すなわち、これが市民に対する差別であることを理解していないのか、しようとしなないのか、私としては理解に苦しむ。

そして、これまでも繰り返し述べてきたように、私のような苦情を述べる人に対して怒りや憎しみを抱いたり排斥しようとしたりするようになるのである。弱者切捨ての論理が生まれ、被害者が阻害され、加害者が温存されるという理不尽な差別社会がここでは出来上がっている。

NHKのテレビ番組では、フン害に対する効果的なトラブルの解消法が、大阪の泉佐野市と兵庫県の高砂市を事例に紹介されている。弘前市役所はいつまでも居丈高な態度を固持しないで、その精神を見習ってほしいものである。いずれにしろ、弘前市役所の変質的ともいえる旧弊な体質はジワジワと破綻しつつある。

ムダ吠えによる騒音に関しては私も被害者の一人である。向かいの家で飼いはじめた犬が深夜といい、早朝といい、たぶんストレスが原因ではないかと思うのだが、のべつ幕なしに吠え立て啼き喚く。犬にとっても気の毒であり近所迷惑も甚だしい。それでも平気でいられる、そこの家の住人は、ペットトラブルを一向に解決しようとしなない弘前市役所と共通する体質を備えているのではないだろうか。

この稿を書いているさなか、夕方の散歩の帰り道、

散歩の帰り道、わが家のちかくで見たカラスの変死体



わが家のちかくの路上にカラスの死骸が転がっていた。バス停の乗降口だから人目につく場所である。外傷もないので毒物死なのかかもしれない。朝夕、飛来し、ギャーギャー啼き騒ぐ三羽カラスと関係があるのだろうかと思われたのだが、この翌日からカラスが現れなくなったことから察すれば無関係とも思われない。と思いきや、二日ほどするとギャーギャー啼き騒ぎながらやってきた。

死骸は通報すれば、これまでの経験から担当窓口が弘前市役所でありゴミとして処理されることは知っている。弘前市役所に対しては「犬猫看板」の問題で私の場合、名前を耳にしたり思い浮かべたりするだけで生理的に不快感を催すので保健所に連絡した。保健所の係員は死骸を見つけた場所、私の名前・住所・電話番号を聞いてから、担当窓口は市役所だからそちらに連絡してくださいと言った。

私は弘前市役所には話もしたくないので、その事情を説明した。保健所の係員は、それでは今回はこちらで連絡しますと理解を示してくれたのだが、「犬猫看板」の問題の説明を聞いているとき、クククッと押し殺したような小さな笑い声を漏らしていた。若い女性の声だった。きっと、私の怒りが伝わったのだらうと思う。

こうなると私としても、笑うなどとはもってのほか、と相手の非を咎め立てするようなつもりは毛頭なく、むしろ愛嬌のように思われて可笑しくなった。